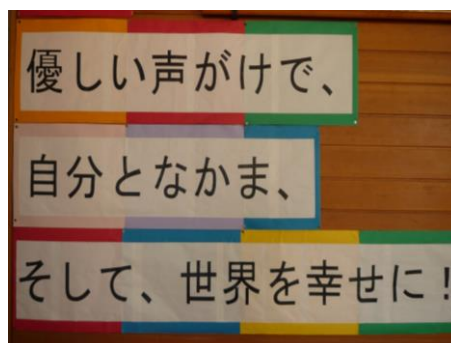


タイトル	一校一国運動の継承と発展～ボスニア・ヘルツェゴビナ、そしてルワンダ共和国～
名称（学校・地域）	長野市立三本柳小学校
日時・場所等	
ホームページアドレス	http://www.nagano-ngn.ed.jp/sanbonis/

三本柳小学校では、1998年一校一国運動としてボスニア・ヘルツェゴビナと交流を始め、内戦中に埋められた地雷に苦しむ人々のことなどを学んできています。そして、2005年よりルワンダの内戦で負傷した人の義肢やつえを現地で作って無償で提供している非政府組織（NGO）「ムリンディ・ジャパン・ワンラブ・プロジェクト」を運営する、ルワンダ共和国在住のルダシングワ・ガテラ、真美さん夫婦との交流も始まりました。ガテラさん、真美さんの本校への訪問は10回目となりました（真美さんの活動は光村図書出版の中学道徳教科書に「希望の義足」として載っています）。



今年度の交流は、1～4年生が初日、5～6年生が翌日と2日間にわたって行いました。1、2年生は挨拶やルワンダについての質問、3、4年生はルワンダの内戦と人々の復興への努力についての話、5、6年生は戦争といじめ・差別についてパネルディスカッションによる話し合いを行いました。

5、6年のパネルディスカッションでは、本校を卒業した中学生3名も自主参加し、ルワンダの内戦から学んだことを身近な問題と重ね合わせて「いじめをした相手を許せるか、許せないか」「どうしたら仲直りができるか」について意見を出し合いました。「許さないと一緒に生活していけない」「許すといじめを許すことになってしまう」など、さまざまな意見が出されました。ガテラさんからは「まず謝ることが全てのスタート。その上で話し合うことが大切」などのお話がありました。学習後、「ガテラさんのお話を聞いて、許せないと思う意見も許せると思う意見も、どちらも正しい面があると思いました。ガテラさんはとても心が広いなあと思いました」などの感想がありました。

本校の本年度学校教育目標のスローガン「優しい声がけで、自分となかま、そして世界を幸せに」に一歩近づく活動となりました。

